

平成 30 年 12 月 14 日  
総合政策局安心生活政策課**公共交通機関におけるバリアフリー化が着実に進捗！**  
～平成 29 年度末 公共交通移動等円滑化実績等報告書の集計結果概要～

平成 29 年度における公共交通機関の旅客施設・車両等のバリアフリー化の主な実績は、1 日当たりの平均的な利用者数が 3 千人以上の旅客施設において、エレベーター等による段差解消が昨年度より約 2.2 ポイント増加し、車両等においてはノンステップバスが約 3.0 ポイント増加するなど、バリアフリー化は着実に進捗しています。

「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行規則」第 23 条に基づいて公共交通事業者等は国土交通大臣に対し、旅客施設及び車両等のバリアフリー化の状況を報告することとされています。この度、公共交通事業者等から提出された移動等円滑化実績等報告書の集計結果（平成 29 年度末時点）をとりまとめましたのでお知らせいたします。

**公共交通機関におけるバリアフリー化の進捗状況（平成 29 年度末）**▶ 全旅客施設※<sup>1</sup>

・ 段差の解消	<b>89.4%</b>	（H28 年度末より約 2.2 ポイント増加）
・ 視覚障害者誘導用ブロック	<b>94.3%</b>	（同 約 0.5 ポイント増加）
・ 障害者用トイレ	<b>85.2%</b>	（同 約 1.0 ポイント増加）

▶ 車両等※<sup>2</sup>

・ 鉄軌道車両	<b>71.2%</b>	（H28 年度末より約 3.5 ポイント増加）
・ ノンステップバス	<b>56.4%</b>	（同 約 3.0 ポイント増加）
・ リフト付きバス等	<b>5.9%</b>	（同 約 0.1 ポイント増加）
・ 福祉タクシー	<b>20,113 台</b>	（同 4,985 台 増）
・ 旅客船	<b>43.8%</b>	（同 約 3.5 ポイント増加）
・ 航空機	<b>97.8%</b>	（同 約 0.7 ポイント増加）

※1：1 日当たりの平均的な利用者数が 3,000 人以上の全ての旅客施設（鉄軌道駅、バスターミナル、旅客船ターミナル及び航空旅客ターミナル）

※2：平成 28 年度のリフト付きバス等における集計結果に誤りがあり、平成 28 年度についての数値を修正いたしました。

各項目の実数値など詳細については下記別紙をご参照ください。

別紙 1 移動等円滑化実績等報告書の集計結果概要（1 日当たりの平均的利用者が 3000 人以上）

別紙 2 旅客施設におけるバリアフリー化の推移

別紙 3 車両等のバリアフリー化の推移

（参考）移動等円滑化実績等報告書の集計結果概要（1 日当たりの平均的利用者が 5000 人以上）

同時公表している自動車局と鉄道局に関する詳細なデータについては以下のリンクのとおり。

【自動車局】

[http://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha\\_tk3\\_000018.html](http://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk3_000018.html)

【鉄道局】

[http://www.mlit.go.jp/tetudo/tetudo\\_fr7\\_000003.html](http://www.mlit.go.jp/tetudo/tetudo_fr7_000003.html)

お問い合わせ先：

国土交通省総合政策局安心生活政策課

交通バリアフリー政策室 川口、藤井、武井

03-5253-8111（代表）（内線 25-503、25-514）

03-5253-8306（直通）

03-5253-1552（FAX）